

1 申請者の情報		申請年月日	2024 年 10 月 18 日
フリガナ	ヒデクリニック	住所・所在地	〒744 -0015 下松市大手町2-4-11
医療機関の名称	英クリニック		

2 病床削減の概要(予定含む)

<許可病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計※2
1	①平成30年度病床機能報告における許可病床数		18				18	18
	②平成30年度報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更があった場合はその許可病床数 ※1						0	0

※1 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合は「1②」は記載不要(令和2年4月1日時点での変更は除く)

※2 対象3区分=高度急性期、急性期、慢性期(以下同様)

<稼働病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
2	①平成30年度病床機能報告における稼働病床数		18				18	18
	②平成30年度報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更があった場合はその稼働病床数 ※3						0	0

※3 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合(「1②」が記載不要となる場合)は「2②」は記載不要

(令和2年4月1日時点での変更は除く)

<病床削減後の許可病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
3	病床削減後の許可病床数		0				0	0

<他の医療機関との病床融通>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	対象3区分の合計
4	他の医療機関との病床融通数 ※4					0

※4 病院統合や地域医療連携推進法人の病床融通制度等を活用し、他の病院等へ病床が移転しようとする場合に記載すること。

また、「(参考)病床移転にかかる概要」に関連する病院等の病床数を記載すること。

<対象3区分から回復期又は介護医療院へ転換した病床数>

		回復期	介護医療院	合計
5	削減病床のうち、回復期又は介護医療院へ転換した病床数			0

<年間在棟患者延べ数(人)>

		高度急性期	急性期	慢性期	合計
6	①平成30年度病床機能報告における対象3区分の病棟の年間在棟患者延べ数(人) ※5		2,455		2,455
	②令和2年4月1日時点年間在棟患者延べ数(人) ※6・7				0

※5 対象3区分の病棟に係る平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)の(48)欄の数値を計上すること。なお、平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)において、「過去1年間の間に病棟の再編・見直しあり」と報告した病棟の年間在棟患者延べ数については、以下の式により補正して計上すること。

○ 補正後の年間在棟患者延べ数=年間在棟患者延べ数((48)欄に記載された数値)×12÷報告可能な対象期間(月単位)

(注) 報告可能な対象期間(月単位)は、平成30年度病床機能報告で報告した月数とすること。

例) 報告可能な対象期間を「平成29年7月1日～平成29年12月末日」とした場合 ⇒ 報告可能な対象期間(月単位)=6

※6 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合(「1②」が記載不要となる場合)は「6②」は記載不要

(令和2年4月1日時点での変更は除く)

※7 令和元年度病床機能報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合は令和元年度病床機能報告の数値を計上すること。

変更がある場合は、変更後令和2年4月1日までの在棟患者延べ数を※5を参考に算定して計上すること。

3 病棟別内訳(予定含む)

【変更前の状況(R2.4.1まで)】

変更前	病棟別内訳 (病床機能報告から転記)	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	稼働病床数
		①	有床診療所入院基本料1	急性期	18床	18床
		②				
		③				
計					18床	18床

※ 平成30年度の病床機能報告を転記することを原則とするが、平成30年度の報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数等に変更がある場合は変更後の病床数等を記載すること。



【令和6年度】

R6 年度	病棟別内訳	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更(予定)時期 ※変更がある場合
		①	有床診療所入院基本料2	急性期	0床	R7年 3月
		②				年 月
		③				年 月
計					0床	



【令和7年度以降】(変更がない場合や計画が未定の場合は、「以後変更なし」「未定」等と記載のこと)

R7 年度	病棟別内訳	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更(予定)時期 ※変更がある場合	
		①				床	年 月
		②					年 月
		③					年 月
計					床		
R8 年度	病棟別内訳	①				年 月	
		②				年 月	
		③				年 月	
		計					床

※病棟別内訳の数が不足する場合は適宜追加すること。

※計画完了時には「休棟等」がすべて削除され、存在しない状態となっていること。

病床削減が地域医療構想の実現に資するものであることの説明資料

対象医療機関名 英クリニック

1 地域の状況		
地域の現状と課題	周南地域医療圏の病床数の内、急性期分は令和5年度で814床であり、令和7年度必要病床数の745床よりも多い状態である。山口県、周南地域とも人口減少が今後もますます進み、高齢者数も徐々に減り、さらに医療費の国全体での削減の必要もあり、病床数も過剰分は減らしていく方向が求められていると考える。	
2 自施設の状況		
自施設の現状 (変更前)	当院は整形外科を中心にして、四肢の骨折、脊椎の骨折、坐骨神経痛等で自宅や施設での日常生活が困難な患者を受け入れ、投薬、リハビリなどの保存的治療、または手術を行っている。救急患者の受け入れ要請があれば外来で診療を行い、必要であれば入院治療を行っている。	
病床数の見直し	見直しの考え方	周南地域、山口県は人口減少が今後も進み、高齢者人口も減少することが考えられるため、医療需要も減少が見込まれる。機能が重複する近隣医療機関もあり、またショートステイや入所施設の増加で病床の必要性も低下することが考えられる。現状として、看護に人手が多くかかるが看護職員の確保も難しいこともあり、今後は無床診療所への転換を図りたい。
	対象の病棟・病床の概要	届出入院基本料：有床診療所入院基本料2 許可病床数：18床
	入院患者への対応	病床廃止予定は令和7年3月だが、徐々に入院受け入れを減らす、又は他院への転院を進めていく。
3 病床削減が地域医療構想の実現に資するものである理由		
理由	今後人口減少がさらに進み医療需要も減少し、周辺に多数の病床を持つ病院があり、全体として病床過多の状態に将来なることが予想される。病院などの役割を分担し、当院は無床診療所として外来医療を中心で行っていくことが、地域医療構想実現に役立つものであると考える。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6		R7		R8		計
		変更時期		変更時期		変更時期	
高度急性期							
急性期	△ 18	R7.3					△ 18
慢性期							
合計	△ 18						△ 18

※複数年度に渡る削減を予定している場合は各年度に削減(計画)病床数を記載

【参考：R5病床機能報告(周南保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・ 廃止予定	介護保険施設 移行予定	合計
報告	①R5(2023)現状	463	814	760	1,051	22		3,110
	②R7(2025)予定	463	774	826	1,022	7		3,092
構想	③R7(2025)必要数	223	745	842	737			2,547
④構想との差(R5)(①-③)		240	69	△ 82	314			541
⑤構想との差(R7)(②-③)		240	29	△ 16	285			538